



首書
 源氏物語
 模柱





三十一

○石山の佛 河石山寺在近江国瀬多南聖武天皇
 御宇金鷲仙人建立云々 花石山の観音と佛
 と云 菩薩と佛と云 玉の巻はち終は
 髯黒大将石山観音を玉の巻といひ終は
 ちふ人し
 ○弁のちもとも 孟 珠の弁を観音とがさ
 わりふともよと也

○えま へて 花玉の弁のちもともよと
 といひ終はちよとてえまといひて終はち
 ひよと

○そら 河多日本紀幾多日

○心あささ人の 細河海心あささ人といひ髯黒と云
 といひ終はちよとてえまといひて終はち
 の物氣をさなく終はちよとてえまといひて終はち
 故ハ物のちよとてえまといひて終はち
 へるよとてえまといひて終はち
 少よ利半ともよとてえまといひて終はち
 といひ終はち可然と

うらなひのぶらんく
 ししうぎにほむら
 およのあはけをの弁は
 ともおまじき
 おりてんぶまのよ
 し
 し
 おらまじき
 れらまじき
 をざらまじき
 わきけんのちよとてえまといひて終はち
 石山寺の佛ハ験徳もわくとれよとてえま
 もあつて
 づに
 う

○ぬれそく 細 實父と云いひ終はち

○引く 或 柳 源氏の心也

○細大将の出入の儀式也云々のと源氏乃と云

○細 大将の心也

○細 いまこの本の方よりませ也

○いしあさよ 或 柳 玉の巻と大将のちよとてえま
 り源氏の心よ不合也本の中方の心よとてえま
 ちよとてえまといひて終はち
 りてちよとてえまといひて終はち

のちよとてえま
 ししうぎにほむら
 およのあはけをの弁は
 ともおまじき
 おりてんぶまのよ
 し
 し
 おらまじき
 れらまじき
 をざらまじき
 わきけんのちよとてえまといひて終はち
 石山寺の佛ハ験徳もわくとれよとてえま
 もあつて
 づに
 う

五異尺一終也

○河平 日本紀 朽論語註場

孟孫氏の約也玉ううとまる孫氏の我方をまきりさんと也

○ちちあとハ 細丹大臣乃西心まううとまる官仕よりハ大将のぬつとぬをハ可然と也

○あまののむいろう花 あまハ生也物のあまいここのまううとまるハ側也とてあまハいもる心也まううハ敷奇く一と也まううハ一官仕る也

○心よハ 弄丹大臣玉ううと念はよとと也 細涯分のかといこくし（まれとも其れとて奉て二方いうと也いれ也

○まは門と 孟門とアも大とのやうあハ曲有まこと父大臣の心也 巴秋玉ううの心章

子の地也

○あらわきと 河淡付 孟あらわら同詞也

○三日のよれ 細嫁娶の三日也餅まきの儀式也 巴秋孫氏より大将ハ三日夜の祝言まきのまいと致仕するて内祝者也

○あおとく 孟孫氏のも也

○あまいれよ 孟 玉ううと舞黒との間の也

あまののむいろう花 あまハ生也物のあまいここのまううとまるハ側也とてあまハいもる心也まううハ敷奇く一と也まううハ一官仕る也

あまののむいろう花 あまハ生也物のあまいここのまううとまるハ側也とてあまハいもる心也まううハ敷奇く一と也まううハ一官仕る也

○女ハコトシヨ河和饒 細マヤコ也

○トテクニテ細大將ニ討テハ和コトヲ安モ
ルテクニテモモ人カコトヲ安モツコト也

○心ヲシワメ細玉コトハ心ヲシト大將ハ心ヲ
也此心ヲ細氏ハ委ハチクテシトシトシトシト
也也初ノ巻コト玉コトハ心ヲシトシトシト
テ細氏ノ心ヲシトシト也
○又ヤ乃忠細玉コトハ兵部官ニ心也

ヨシクシハコトシヨ河和饒 細マヤコ也
トテクニテモモ人カコトヲ安モツコト也
心ヲシワメ細玉コトハ心ヲシト大將ハ心ヲ
也此心ヲ細氏ハ委ハチクテシトシトシトシト
也也初ノ巻コト玉コトハ心ヲシトシトシト
テ細氏ノ心ヲシトシト也
○又ヤ乃忠細玉コトハ兵部官ニ心也

○物心ツコトハ或掛 玉コトハ心ヲシト大將ハ心ヲ
也此心ヲ細氏ハ委ハチクテシトシトシトシト
也也初ノ巻コト玉コトハ心ヲシトシトシト
テ細氏ノ心ヲシトシト也
○又ヤ乃忠細玉コトハ兵部官ニ心也

○今コトシヨ 弄 細氏ノ心ヲシト大將ハ心ヲ
也此心ヲ細氏ハ委ハチクテシトシトシトシト
也也初ノ巻コト玉コトハ心ヲシトシトシト
テ細氏ノ心ヲシトシト也
○又ヤ乃忠細玉コトハ兵部官ニ心也

○今コトシヨ 弄 細氏ノ心ヲシト大將ハ心ヲ
也此心ヲ細氏ハ委ハチクテシトシトシトシト
也也初ノ巻コト玉コトハ心ヲシトシトシト
テ細氏ノ心ヲシトシト也
○又ヤ乃忠細玉コトハ兵部官ニ心也

○今コトシヨ 弄 細氏ノ心ヲシト大將ハ心ヲ
也此心ヲ細氏ハ委ハチクテシトシトシトシト
也也初ノ巻コト玉コトハ心ヲシトシトシト
テ細氏ノ心ヲシトシト也
○又ヤ乃忠細玉コトハ兵部官ニ心也

ヨシクシハコトシヨ河和饒 細マヤコ也
トテクニテモモ人カコトヲ安モツコト也
心ヲシワメ細玉コトハ心ヲシト大將ハ心ヲ
也此心ヲ細氏ハ委ハチクテシトシトシトシト
也也初ノ巻コト玉コトハ心ヲシトシトシト
テ細氏ノ心ヲシトシト也
○又ヤ乃忠細玉コトハ兵部官ニ心也

○大将のおせぬ 孟保氏の玉うつり入也

○ともよろう 或楸 健也 地氣分たささる也

○ともくはて 万水ともいふてさると也

○ともさ 河 賢く 静く たまふ心也
細くしくさる也
或楸 顕く 今外表むさすみ 好てさるる也
さくわくともてさす好也

○ともささる 花 輪里の大将れり也
細此比大将よりして今保氏より別物よ

尺ゆり也

○ありひの外さる 花 玉うつり心也
巴楸 大将と 芳り 流ひくさるる也

○やうくさる せ楸 表方の下さる也

○女のをさけ 孟保氏の玉うつり也

○ともさる 乃 孟 懷 姓也

○ともさる 乃 細 保 氏 心也 我ものうても
さるる心也

しりあひしりあひしりあひしりあひし
もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
わやわやわやわやわやわやわやわやわや
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
かくかくかくかくかくかくかくかくかくかく
ぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ
すくすくすくすくすくすくすくすくすくすく

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ
もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
ぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく
あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむ
すくすくすくすくすくすくすくすくすくすく

○中よりして細玉つとをむ久ハ中よりしてま
一きせし也

○宮のまじり 或は父官のこゝろよりする
と名づる也

○まろのちりり 或は今より父官のこゝろより
するハ西方の外すしりく又大将のまじり
へうぬす也 年米のこゝろよりする

○人のつすまハ 孟北方の返答也 病者するはま
と似ぬがとも父官のまじり也

○いそくちるきん 巴状 父官也

○ちりのわ方 細紫上也

○しくよハ 孟北方と紫上とよりするハ也

○うまいちるぬまそ 或は紫上ハあまよき時祖
母よきとてかくれておハせ人也

○末の世より 花是ハ紫上と官の根也 玉
ころれ君と大将よわとせはらと紫上の末
と官の心えりて根也

○こまハ細 何ともこまハ細也

○こまさい 細ともこまさいハ西方の根也
巴状 大将よ我がまもせんとも父官ハ

○いしちう 細くの根まハ可然又そのま
あよりてハ也 孟草子地

いそくちるきん
ちりのわ方
しくよハ
うまいちるぬまそ
末の世より
こまハ細
こまさい
いしちう

いそくちるきん
ちりのわ方
しくよハ
うまいちるぬまそ
末の世より
こまハ細
こまさい
いしちう

○さしひのちう 世掛 叫心也わが物その心也

○さしひのちう 万水草子れ地也

○さしひのちう 花物のきりか持せれてうれ

ひつぎさうきさささうひのーか也

○さしひのちう 弄行者のちうしーか也

○さしひのちう 或掛物のきりか持せれてうれ

○さしひのちう 万水大将より玉うへ文あり

○さしひのちう 孟文の初也

○さしひのちう 世掛 あざう心也

○さしひのちう 万水雪しひ独れのみと也

○さしひのちう 孟玉うへ文あり

○さしひのちう 河本強 孟わが物の文也

○さしひのちう 大将也 河後撰 雪のきりか持せれてうれ

○さしひのちう 兼茂朝臣 う滑てえよ乱

○さしひのちう 花雪もよハ雪催一也 襟巻もよハ侍り独

○さしひのちう さいけつハ火取の灰をわしりよのよハ

○さしひのちう 語助也

○さしひのちう 弄實ある也 孟とて也

○さしひのちう 或掛 大将文あり

○さしひのちう 或掛 大将夜れといふおかけ

○さしひのちう 何れとて文とやハあり

○さしひのちう 或掛物のきりか持せれてうれ

○さしひのちう 或掛物のきりか持せれてうれ

○さしひのちう 或掛物のきりか持せれてうれ

○さしひのちう 或掛物のきりか持せれてうれ

わが物その心也

花物のきりか持せれてうれ

弄行者のちうしーか也

或掛物のきりか持せれてうれ

万水大将より玉うへ文あり

孟文の初也

世掛 あざう心也

万水雪しひ独れのみと也

孟玉うへ文あり

河本強 孟わが物の文也

大将也 河後撰 雪のきりか持せれてうれ

兼茂朝臣 う滑てえよ乱

花雪もよハ雪催一也 襟巻もよハ侍り独

さいけつハ火取の灰をわしりよのよハ

語助也

弄實ある也 孟とて也

或掛 大将文あり

或掛 大将夜れといふおかけ

何れとて文とやハあり

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

或掛物のきりか持せれてうれ

○心のうちよと 孟 駝舞里の心也 玉うらとていふ
 まて山方の無事であれうしと也

○まじり 或抄 本心の時とていふ也

○うらまを 或抄 暫時もていふとていふ也

○まじりま 花 氣味也 あそくしと心也

○ゆらりま 細 小方ハいらし物なきらふまは
 ませハ大将の装束無状ハいらしてよりけり
 わしとて也 河海花鳥の本相違あり

○むつろ 万水 大将の腹立也

○よるの 或抄 先夜の直衣ハ火取の火を焼
 けり也

うらまをのゆらりま
 だにまじりまの
 まじりまのゆらりま
 うらまをのゆらりま
 まじりまのゆらりま
 うらまをのゆらりま
 まじりまのゆらりま
 うらまをのゆらりま
 まじりまのゆらりま

○ゆらりま 或抄 董のゆらりまとていふ也

○うらま 河 愠 老子程 といふ也

○河海之本 河海 行水也

○ゆらりま 弄 前もあつ董
 のゆらりまをてり 万水 小方の大将よとてい
 て独あつて胸のゆらりまをてり也
 まじりまの心也

○ちま 細 本君の初

○ちま 河 傷 或抄 やり初也

ゆらりまのゆらりま
 だにまじりまの
 まじりまのゆらりま
 うらまをのゆらりま
 まじりまのゆらりま
 うらまをのゆらりま
 まじりまのゆらりま
 うらまをのゆらりま
 まじりまのゆらりま

○さしと丸玉 孟父宮の正と旗のりゆ

わんこ也

○細女 ^ハ 細女ハハ云々

万水女房 ^ハ 万水ハ云々

つし ^ハ つしハ云々

まのん ^ハ まのんハ云々

○すう ^ハ すうハ云々

○つて ^ハ つてハ云々

○て ^ハ てハ云々

いさやー 万水 ^ハ いさやー

○ん ^ハ んハ云々

○次 ^ハ 次ハ云々

○の ^ハ のハ云々

○巴 ^ハ 巴ハ云々

○官 ^ハ 官ハ云々

かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき

かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき
かたあはらぎのきりぎりすのこゝろは
すさやうのつとむらゝのひらき

○もしくも奇 本二君也 或抄ありひしむまか
 りきてもしくもくつれしむしんやの不定世中
 むまハ我とともまうてあふしんもはくも也
 ○いてやして 或抄してやふし世にまひてふん

○くみまきそ 河君う住宿の梢とゆりく
 くらくまてまうりスーくや 拾遺菅家
 観喬本於古里 文選別賦

○君うとむしんハ 巴抄 菅家のまふハ引くて大
 将の家よ心しむらるるハる久くくも
 名残とと也

○尺やふハ 細 くれより式乃宮の内之出好て
 のるり一度嫁娶して後は故郷に立帰る

あつちーこころれハ也

○母方 弄紫上の継母也 細よりうら人のう

まふ乃巻はるしん

○大さかしく 或抄 源氏のみ也是ハ母方ハ源氏
 とささかしくる約也

○あつちーこ 或抄 桐壺巻にも有引也仍不叙
 何事

○世所とし 花冷泉院世式部卿宮の内女し其巻
 よ入内あり 秋好中宮よとれはるる云や

○それハ中ハ 細 とも人の音信さうりも也他人
 よハ眼とまんと世上れゆるとおひはくも世に
 と有きまのこ也

○るともやハ 或抄 ちやうふハわらうしん

○んいしうと 細 世よと家ハはるその兄弟を
 とてとくアはるもはるさく云也姉妹兄弟皆
 列年していつ物と也

ざりしんあうりてはるるさ
 んんんんんんんん
 ののののののののののの
 ほほほほほほほほほほ
 めめめめめめめめめめ
 川川川川川川川川川川
 うハハハハハハハハハハ
 と目やもめそがらうまが細
 尺ねけうまみまみみみハ
 わがてらうりてはるる
 乃いぞまのびまらあかん
 ちままらうりてはるる

くやうりてはるる
 おのさかまらうりてはるる
 とおひはるしはるる
 乃ひのわがはるる
 まんしんハおりの世所
 正ふあまらうりてはるる
 流しどがしはるる
 ざらうりてはるる
 はまひあしおりのはるる
 もいひかしはるる
 あらうりてはるる
 むらうりてはるる

七十一

○まろりとのよ孟父官は恨みとてあはれ
きとてまろ我不入う好也

○あーく細男くーく也まろ程のあや
アろろろろー

○さてし世の人よ孟大将の也ゆ方の物の氣を
アろりてわりけくとまろのあはれあはれ
へいよと也

○いこひのまー孟大将のあはれとてあはれ也

○五ともろ 或抄の方と一不は住ぬいーも也
りろの孟ゆ方の物のあはれあはれあはれと也

○のまろりーと 或抄 権君のあはれ也

○アろりともろ 孟式了之へりろ路決とて也

○いれんーあへも 細大将のあはれ也

○何ろ時よろろ花 是は式了官の初也
細大将の心ろ今ろろろろとてあはれ也年ろ
ろこれあはれ也ゆ方のあはれあはれとあはれ官
のろろろあはれ也

七十一

まろりとのよ孟父官は恨みとてあはれ
きとてまろ我不入う好也
あーく細男くーく也まろ程のあや
アろろろろー
さてし世の人よ孟大将の也ゆ方の物の氣を
アろりてわりけくとまろのあはれあはれ
へいよと也
いこひのまー孟大将のあはれとてあはれ也
五ともろ 或抄の方と一不は住ぬいーも也
りろの孟ゆ方の物のあはれあはれあはれと也
のまろりーと 或抄 権君のあはれ也
アろりともろ 孟式了之へりろ路決とて也
いれんーあへも 細大将のあはれ也
何ろ時よろろ花 是は式了官の初也
細大将の心ろ今ろろろろとてあはれ也年ろ
ろこれあはれ也ゆ方のあはれあはれとあはれ官
のろろろあはれ也

まろりとのよ孟父官は恨みとてあはれ
きとてまろ我不入う好也
あーく細男くーく也まろ程のあや
アろろろろー
さてし世の人よ孟大将の也ゆ方の物の氣を
アろりてわりけくとまろのあはれあはれ
へいよと也
いこひのまー孟大将のあはれとてあはれ也
五ともろ 或抄の方と一不は住ぬいーも也
りろの孟ゆ方の物のあはれあはれあはれと也
のまろりーと 或抄 権君のあはれ也
アろりともろ 孟式了之へりろ路決とて也
いれんーあへも 細大将のあはれ也
何ろ時よろろ花 是は式了官の初也
細大将の心ろ今ろろろろとてあはれ也年ろ
ろこれあはれ也ゆ方のあはれあはれとあはれ官
のろろろあはれ也

○このわがよ 細大将の直慮也

○このうらまをこそ 万水 五つとともくは 大将の殿へ

○このついでよ 孟尚侍といき 内裏よとあはて ひと 大将のさつこい

○おろしきと 襲玉うへ

○このうらまをこそ 細わうらうら 四返とともくは 殿へ
○このうらまをこそ 巴城 伊氏の 異見の旨とともくは 殿へ
○このうらまをこそ 天子の 御心とともくは 退出のれとともくは 殿へ
○このうらまをこそ 早速とともくは 廿五のれとともくは 殿へ
○このうらまをこそ 天子との 満足かとともくは 殿へ

○このついでよ 巴城 大将の心也

○このうらまをこそ 或城 ころひ 必退出とともくは 殿へ
○このうらまをこそ 河 芥ついでい ひととともくは 殿へ
○このうらまをこそ 河 委

○このうらまをこそ 細 兵部 卿 官 文とともくは 殿へ

○このうらまをこそ 孟 右衛門 府 曹司 直慮也 大将
○このうらまをこそ 孟 大将の 父 けやうとともくは 兵部 官
○このうらまをこそ 孟 大将の 父 けやうとともくは 兵部 官

このうらまをこそ 細わうらうら 四返とともくは 殿へ
このうらまをこそ 巴城 伊氏の 異見の旨とともくは 殿へ
このうらまをこそ 天子の 御心とともくは 退出のれとともくは 殿へ
このうらまをこそ 早速とともくは 廿五のれとともくは 殿へ
このうらまをこそ 天子との 満足かとともくは 殿へ
このうらまをこそ 河 委
このうらまをこそ 孟 大将の 父 けやうとともくは 兵部 官
このうらまをこそ 孟 大将の 父 けやうとともくは 兵部 官

このうらまをこそ 細 兵部 卿 官 文とともくは 殿へ
このうらまをこそ 孟 右衛門 府 曹司 直慮也 大将
このうらまをこそ 孟 大将の 父 けやうとともくは 兵部 官
このうらまをこそ 孟 大将の 父 けやうとともくは 兵部 官

花 縫殿寮式云深紫綾一疋紫草廿八石
帛一疋紫草廿八石八斗今案紫草はくも
漆物也さそくいあひりてさこしつり

細とこしつりいんさち也紫草は灰と合せり
るり下心ハ三位は叙しぬり也

孟三位よりハ紫草とゆりさう也
さうひぬり弄語或は至上のさうひぬりも
玉ろのりてありとさそく入てり下ぬ也

さやつらん 細世あれ註と草地さう也
河 從三位加階

いろんさ 花三位よりハ紫の色を用り火は加階
のりさうりさうりし 或は内門ハ心ありて
三位は叙せぬりさうりハ何れ分別さうり
と也玉ろのりさう也

今よりらん 細 而後一と一服と奉公と上れ
るの今より 細 勅定也

されらん 細 此れとさうりハさうり
さし也 或は此恨とさうりてぬれとのぬれ
これハ批判とさうりて理う非くとさうり
さうり

いんさうとも 孟内門の恨とさうりとの心也
さうりさうりとも 或は情りさうりハさうり
のぬれをさうりさうりハさうりさうり也

さうりさうりて 孟玉ろのりさうりてぬれ
さうりさうりハ 細 さうりさうりさうり也
大将さうり 孟内門の心とさうりて大将の恐怖

のりさうりハ 細 退出のりさうり也
或は意也 也 俗語 惑ハさうりさうり也

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり

○やうのまきひらきも或抄四門の女流うらまわ
らむとちひこちうくくしぬ返りもいせ

○るとの細ほ成也 弄ほ成の心と成也

○いしよつとて或抄ほ成の心と成也
くちらふとてちひらひし又實まの心と成也
うらむとてちひらひの心と成也

○まらるるくひわり或抄玉うらむと成也
玉うらむと山吹うらむと成也

○春のおまへ 孟紫上の心也

○こころいよまらうて細うの心と成也

○さしやうの孟紫の咲く心と成也

○或抄山吹うらむと下れちひらき

○色は衣と河六帖くちらひ色は衣と成也
いと心は物と成也

○成ぬれと花のうら世は成也

○山吹の心と成也

○河六帖の心と成也

○花玉の心と成也

○巴敷玉の心と成也

○草子の地也

○うれ子の河鴨子西宮記獻鴨子事多有之
の心と成也

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

花のおひし

○どうしてか弄手くころとえしうへて
 まうりて返りてしをれとより大將の玉う
 るりて大將の心の中を推し
 へたまのせもぬふとやまらり
 巴敷玉うりの代りあらハ卑下也
 ○よろめ弄師氏より「あう」心也
 ちやしのつせ也
 ○大將乃或扱大將の文とそめて居氏の
 ころのつせもぬふとやまらり

○くらりし 孟領しち也

○かきわけて何貞文日記云さうまがけ
 けさく物くま又云く文つるハハ
 状をさくやまわむきまハ
 弄まむとさるら也 孟ち方の持り也

○大さのつひ 巴扱大將より本のち方
 音信あり

○えと 万木大將のつあつひ
 くよえをさるれぬ也

○ひめ君とを 細 真本柱の君也
 孟大將の一眼と愛子とをい
 一而又せぬ也

○君乃る心は 孟父君と皆く
 の君乃る心は 孟父君と皆く
 の君乃る心は 孟父君と皆く

○やと君とらハ 孟男子とらハ玉う

もしもらうけりては
 のつせむくつさよはらう
 ころかかろけりては
 てすまむくつさよはらう
 ちねのつせむくつさよ
 まむくつさよはらう
 としてさむくつさよ
 まむくつさよはらう
 おらむくつさよはらう
 まむくつさよはらう
 ちねのつせむくつさよ
 まむくつさよはらう

もしもらうけりては
 のつせむくつさよはらう
 ころかかろけりては
 てすまむくつさよはらう
 ちねのつせむくつさよ
 まむくつさよはらう
 としてさむくつさよ
 まむくつさよはらう
 おらむくつさよはらう
 まむくつさよはらう
 ちねのつせむくつさよ
 まむくつさよはらう



